表１４　衣類の素材に関して

	度数	%
吸湿・吸水性	261	44.4%
保温性	211	35.9%
通気性	73	12.4%
強度	9	1.5%
伸縮性	32	5.4%
その他	2	0.3%
合計	588	100.0%

素材として最も使用しやすいものはとの質問では、綿がやはり圧倒的に多く約９割以上を占めた。

表１５　素材として最も使用しやすいもの

	度数	%
綿	459	93%
毛	5	1%
合成繊維	25	5%
その他	5	1%
合計	494	100%

衣類を選ぶ時に最も重視する点は、サイズが最も多く約2/3を占め、この後、肌触り、素材、形、色などが続く。

表１６　衣類を選ぶ時に最も重視する点

度数分布表		
	実測度数	%
サイズ	319	67%
形	22	5%
色	18	4%
肌触り	48	10%
素材	45	9%
デザイン	8	2%
丈夫さ	8	2%
本人の好み	5	1%
その他	5	1%
合計	478	100%

衣服の着脱に関しては、ボタンの衣類を使用するものが約４割を占め最も多い。ついでファスナーのものである。

表１７　衣服の着脱

	度数	%
ボタン	66	43%
ファスナー	43	28%
マジックテープ	15	10%
ひも	5	3%
その他	23	15%
合計	152	100%

衣服の大きさの質問では、少し大きめなものを着用しているものが約 6 割を占め、ちょうど良い大きめなものは約 1/3 に過ぎなかった。これは着脱がなかなか困難である重症心身障害児（者）においては当然の事と思われる。

表１８　衣服の大きさ

	度数	%
かなり大きめなもの	27	5.3%
少し大きめなもの	300	58.8%
ちょうど良い大きめなもの	183	35.9%
合計	510	100.0%

衣服のサイズの基準は、年齢や胸囲を基準としているものが比較的多い。

表１９　衣服のサイズの基準

	度数	%
年齢	96	28.2%
身長	47	13.8%
体重	43	12.6%
胸囲(バスト)	69	20.3%
腹囲(ウエスト)	31	9.1%
頭の大きさ	29	8.5%
手足の長さや太さ	7	2.1%
その他	18	5.3%
合計	340	100.0%

既成服のサイズが合わないときの対策はとの質問には、直すというものが圧倒的に多かった。

サイズ直しをする場合、主としてどの部分を修理しますかとの質問には、太さと長さがそれぞれ約4割を占める。

表２０　どの部分を修理するか

	度数	%
長さ	249	44.8%
太さ	209	37.6%
その他	98	17.6%
合計	556	100.0%

衣類の色でどんな色合いを選ぶかとの質問では、茶を除く、ほとんどの色が 10%台であったが、青と、赤がそれぞれ約2割を占めた。

表２１　衣類の色でどんな色合いを選ぶか

	度数	%
赤系	270	19.3%
青系	285	20.4%
黄系	216	15.5%
茶系	137	9.8%
黒系	172	12.3%
白系	240	17.2%
その他	77	5.5%
合計	1397	100.0%

色を選ぶ時の参考にすることはの質問には、親の好みが半数を超え、最も多かった。

表２２　色を選ぶ時の参考にすることは

	度数	%
着用者の好み	128	21.8%
親の好み	321	54.8%
汚れの目立たない色	98	16.7%
その他	39	6.7%
合計	586	100.0%

厚着か薄着かとの問いには、厚着派、薄着派いずれもほぼ同数であった。

表２３　厚着か、薄着か

	度数	%
厚着	237	50.7%
薄着	204	43.7%
その他	26	5.6%
合計	467	100.0%

衣服の材質としては、伸びちぢみしたほうが良いかとの質問では、これもほぼ半数ずつとなった。

表２４　伸びちぢみしたほうが良いか

	度数	%
伸び縮みした方がいい	234	47.1%
伸び縮みしないほうがいい	263	52.9%
合計	497	100.0%

特注での値段の限界はとの質問では、1.2 倍が半数を超えた。

表２５　特注での値段の限界は

	度数	%
1.2 倍	271	56%
1.5 倍	139	29%
2 倍	21	4%
それ以上	2	0%
その他	47	10%
合計	480	00%

肌触りをどこまで重視するかとの質問では、あまり重視はしないが約３割であり、かなり肌触りを重視している事が分かる。

表２６　肌触りをどこまで重視するか

	度数	%
非常に重視する	142	30%
多少重視する	198	41%
あまり重視しない	135	28%
ほとんど重視しない	2	0%
合計	479	100%

汗の量が多いか少ないかとの質問では、多い、普通、少ないいずれもほぼ同数であった。

表２７　汗の量が多いか少ないか

	度数	%
多い	72	33%
普通	74	34%
少ない	72	33%
合計	218	100%

考察

上述したように、重症心身障害児(者)についての生活に密着した研究はまだまだ少ないようである。これはおそらくこれまでの重症心身障害児(者)対策が主として施設中心で展開されてきた事に無縁ではなかろう。しかし、ノーマライゼイションの思想の普及に伴い、さらには、今後のわが国の経済状況にもよると思われるが、施設処遇を大幅に増大する事が極めて困難になりつつある現在、また、多くの保護者の考え方にも在宅志向が定着しつつある今日、在宅重視の考え方を中心としての療育のあり方が課題となるであろう。このように考えると、より生活に密着したあり方が問われている。衣食住などの研究が今後より重要性を帯びるのは以上の理由による。我々は、このような視点から被服に関しての研究を進めているが、被服それ自身の諸問題はこれから進めていくとして、まずは、被服に関しての意識調査を行った結果が以上のようなものである。昨年に、我々は重症心身障害児（者）の保護者に対しての衣類に関しての意識調査を行った[1)]。今年度は昨年の調査に引き続き症例数を増やして研究を行った。

まず、機能面か快適さかという質問ではほぼ同数であり、保護者として、まだまだ機能面を重視せざるを得ない現状が垣間見られる。着替えに関しては、健常児とはかなり異なり、汚れるたびにというものは少ない。同様に着替えの回数もかなり少ない、これらは、重症心身障害児の保護者が日常の介助に追われてここまで中々手が回りきれない状況を示していることが想像される。衣類の素材に関しては、やはり機能重視

での面が見られる。素材として綿が重視されているのも同様な理由によると思われる。これは、衣類が汚れる頻度がかなり多い重症心身障害児においては、洗濯の回数がかなり多くなる事が予想され、このような結果となるものと思われる。衣類を選ぶ時に最も重視する点はサイズと肌触りが多く、これも後述のサイズの問題とも関係するが、少し大きめの衣服を購入し、着せやすいものを重視している事が分かる。また、衣服の着脱に関しては、ボタンのものが最も多く、意外にファスナーやマジックテープのものが少なかった。衣服のサイズの基準は、健常児と重症心身障害児(者)とでは年齢は同じでもその体型や身長・体重がかなり異なる重症心身障害児(者)においては、その回答が分かれてくるのは当然としても、今後の問題としては、どのような体型でもマッチするような被服の改良が必要になってくるものと考えられる。勿論、直すということでも、かなり大幅な直しから、ほんのわずかな改良まで、その内容はかなりの幅があるものと考えられる。従って、直す場合でも、比較的簡単な改良で、快適な着易さが得られるような衣類の開発が望まれているであろう。その後の質問とも関連するが、サイズが合わない時の対応としては直すというものが圧倒的であった。しかし、問題は介護に追われた生活を強いられている重症心身障害児(者)の保護者が少しでも修理などに費やす時間が少なくするための被服が何処まで開発できるかという問題がある。これは後の特注での値段との関連でもいえるが、約半数は 1.2 倍までの値段を希望しており、このような特別な工夫がなされた被服がどの程度の値段で提供できるかという市場の問題もあろう。修理をする部分は長さと太さであることは当然であろう。被服の色合いは青と赤が多く、これは、派手な色合いで生活に明るさを求めている気持ちを考えさせる。これはその後の親の好みで色を選んでいる事に反映されている。厚着か薄着かという質問では、約半数づつで、感染症の危険に常時さらされている重症心身障害児(者)に厚着が多いということは保護者の気持ちを考えるともっともの事ではあるが、より健康へと考えるならば、出来るだけの薄着も必要となってくるのではないかと言いたくなる。伸びちぢみしたほうが良いかとの問いでは意外にも伸び縮みしないほうが良いとの回答が半数を超えた。肌触りはやはりかなり重要視されている。汗の量はもともとの基準が明確ではないためか回答が分かれた。

谷口氏[2] はその論文の中で、重症心身障害児の衣類のあり方についての所見を述べている。その見解はおおよその部分では同意できるが、多少気にかかるところといえば、あるべき論がかなり強い点である。重症心身障害児においての生活上の諸問題は、障害児自身の問題として考えるのは当然としても、それ以外に、その生活を支える保護者、特にその大部分は障害児の母親の問題としても考えることが重要であろう。毎日の障害児（者）に対しての生活介助は、母親自身の生活を大幅に犠牲にして成り立っていることを忘れることは出来ない。従って、生活上の問題を考える場合には、この点の配慮が大切である。今回の調査も、保護者に対してのアンケート結果であることは、その対象を考えると、やむを得ないこととはいえ、この結果を考える場合に、この事を念頭においての配慮がなければいけないことはいうまでもない。

以上、被服環境に関してのアンケート結果に関して若干の考察を加えて述べた。

結語

以上、重症心身障害児（者）の衣服に関しての保護者の意識調査を行ったが、以上のようなアンケートの結果が得られた。来年度はこれらのデータのうち、施設入所者と在宅者の比較を行ってみたい。

最後に、このアンケート回収に際して多くの障害児(者)の保護者の方々からご協力を頂いた。ここにこれらの方々に心から御礼申し上げたい。

参考文献

1)多屋淑子, 厚生科学省研究費補助金障害保健福祉総合研究事業,「重症心身障害児のＱＯＬ向上を支援するための衣生活に関する研究」,平成１２年度総括・分担研究報告書（2001）

2)谷口和雄,「重症心身障害児へのアプローチとトータルケア：生活環境の整備と留意点　衣類について」,小児看護) ,24(9), 1195-1197